

11月23日（日） ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 28章17節～22節 （新約 270頁）

メッセージ 「ローマでの宣教」

だからこそ、お会いして話し合いたいと、あなたがたにお願いしたのです。
イスラエルが希望していることのために、わたしはこのように鎖でつながれているのです。
（使徒言行録 28章20節）

（1）ユダヤの総督フェリクスの前でパウロは弁明を続けました。その結果、フェリクスはパウロの告発者たちに、判決はこのパウロをここに送った千人隊長がここに来てからだと宣言し、判決を延期しました。その結果、パウロはカイサリアで軟禁状態に置かれました。その後パウロは、フェリクスが退任するまでの2年間、カイサリアに留め置かれました。

2年後、総督はフェリクスからフェストゥスに交代しましたが、新しい総督フェストゥスはユダヤ人たちから気に入られようとしてパウロを釈放しませんでした。

フェストゥスが赴任して3日がたちました。フェストゥスはエルサレムを訪問しました。すると祭司長やエルサレムの主だった人たちは、パウロをエルサレムへ送り返すよう求めました。その途中でいのちを奪おうと狙っていました。しかし、フェストゥスはカイサリアで裁判するというと、エルサレムの有力者たちにカイサリアでの裁判に同席するよう求めました。

カイサリアで裁判が開廷されました。パウロは裁判の場に引き出されました。パウロを殺そうと狙っていたユダヤ人たちは、パウロを告発します。しかし、立証する事が出来ませんでした。フェストゥスはユダヤ人たちに気に入られようとしてパウロにエルサレムに行く事を勧めます。するとパウロは、私は皇帝に上訴すると答えました。結局パウロは皇帝のもと、ローマに出頭する事となりました。

（2）アグリッパ王とその妹ベルニケが、ユダヤの総督フェストゥスを表敬訪問するためにカイサリアにやってきました。何日か滞在していた時、フェストゥスは二人に、囚人であったパウロの事を話しました。

その中で、フェストゥスはこう伝えました。「パウロと言っている問題は、彼ら自身の宗教に関することと、死んでしまったイエスとかいう者のことです。このイエスが生きていると、パウロは主張しているのです。（19節）

フェストゥスは、このことについて、自分には調べるすべを持っていない。だからエルサレムへパウロを送ろうとしたが、パウロは皇帝に上訴し、それが適うまでここにとどめて欲しいと願い出たことを話しました。フェストゥスの話を聞いたアグリッパ王はパウロに関心を示しました。

（3）フェストゥスはアグリッパ王に、パウロは死んでいるはずのイエスが生きていると主張していることを伝えました。しかし、このパウロの主張こそがわたしたちに伝えられている信仰です。イエス様は今も生きておられます、そして、わたしたちのそばにおられ、この世界に働きかけて下さっています。

パウロの主張は、フェストゥスには、奇妙な主張に聞こえたかもしれません。今日、信仰に生きるわたしたちにとってよく理解できる主張なのです。

（多田玲一牧師）